

ダニエル・カールの

聞きたい! 消防団

第23回

千葉県松戸市消防団

今回は、江戸川を超えて東京のお隣り、千葉県松戸市をお訪ねしました。

松戸市消防団は、首都直下地震等への対応策として、大規模災害を想定した訓練を取り入れるなど、操法だけでなく実践を念頭に置いた活動を始めていらっしゃるそうです。

また、団員確保においても、消防団の現代な

らではの課題に向き合っていらっしゃるそうです。そんな松戸市消防団についてお尋ねしたいと思います。

それでは、松戸市消防団の小嶋功団長、日暮勝副団長、大塚精一副団長、志村憲邦副団長、成嶋元安副団長、鈴木伸一副団長からお話を伺いましょう。



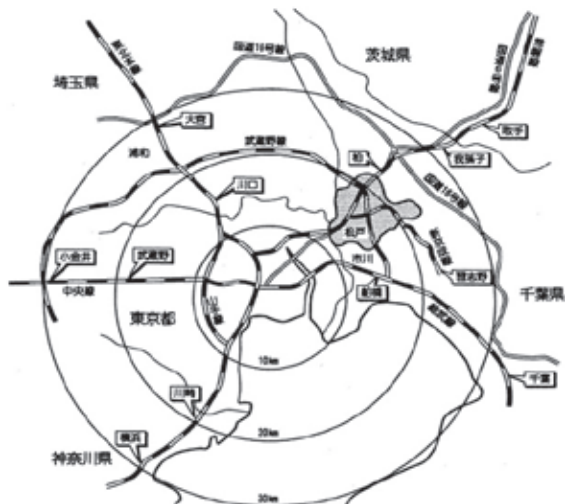
左から、成嶋副団長、大塚副団長、小嶋団長、ダニエル・カール、日暮副団長、鈴木副団長、志村副団長（松戸市消防訓練センターで撮影）

松戸市の概要について

ダニエル まずは松戸市の概要を教えてください。

小嶋団長 本市は都心から20km圏に位置し、さらに千葉県の東葛飾地域(北西部)の一翼に位置しています。西は江戸川を境に東京都葛飾区、埼玉県三郷市と接し、南は市川市、東は鎌ヶ谷市、東から北にかけて柏市、流山市と接しています。

市域面積は61.38km²で東西11.4km、南北11.5kmと、ほぼひし形状のひろがりとなっております。周囲は56.145kmとなっております。



本市では、人と生き物が共生できる街をめざしており、市の木4種類、市の花3種類、市の鳥が3種類と制定されています。まず市の木ですが、しい(里の木)、ユーカリ(国際交流の木)、さくら(街の木)、なし(郷土の木)の4種類です。次に市の花は、つつじ(街の花)、あじさい(庭の花)、のぎく(里の花)の3種類です。最後に市の鳥ですが、ふくろう(森の鳥)、つばめ(街の鳥)、しらさぎ(水辺の鳥)の3種類です。

ダニエル ありがとうございます。大都市近郊ながら自然も豊かですごく魅力的ですね。

松戸市消防団の概要について

ダニエル 松戸市消防団の概要を教えてください。

小嶋団長 松戸市消防団の組織概要としては、すべて平成29年4月1日現在で、1本部、10方面隊、11中隊、36個分団、42個班で、団員数は条例定数が640人に対し、実員数が568人、充足率は88.8%です。平成9年度には女性消防団員を採用し、男女共同参画社会において、地域防災力に大きな力が加わりました。内訳として男性団員数が534人で女性団員数が34人です。

階級別団員数は団長1人、副団長7人、分団長61人、副分団長37人、部長54人、班長79人、団員329人で、平均年齢は42.4歳、平均在団年数は12.8年です。また、普通消防ポンプ自動車8台、小型動力ポンプ付積載車34台の計42台を所有しています。

活動拠点となる消防センターは41箇所、車両や機械器具が置かれており、「都市型」、「住宅地型」、「神社境内地型」といった、都市景観にマッチした魅力と風格のある建物は、地域住民から信頼され親しまれる消防団のシンボルとしての施設です。

任命の要件としては、市内に居住または勤務する18歳以上55歳未満の者で、市長の承認を得て団長が任命をします。



インタビューに答える小嶋団長

災害時の活動について

ダニエル 松戸市消防団では災害活動はどのような態勢で行ってらっしゃいますか？

小嶋団長 松戸市消防団では、直接ポンプから水を出して火事を消すということは、今はよほどのことがない限りありません。最近の火災現場での活動としては、交通整理やホース整理、残火処理活動といった後方支援となっています。

ここにいる者たちは、火災現場で水を出して活動した経験もあるかと思いますが、今の20代、30代の人たちは、そのような経験が(あってはいけないのですが)少ないのではないかと思います。ですが、その技術が必要ないのかと言われるとそうではなく、大規模な災害が起こったときや、常備消防隊のポンプ自動車などが入って行けない場所の火災のときに、小回りの利く消防団の機動力が必要になります。後方支援も重要なことではあるのですが、水を出すという経験がなければ、いざというときに活動ができませんので、年に1度、松戸市消防団夏季特別訓練大会を開催し、ポンプ自動車操法や小型ポンプ操法の競技を実施しています。各分団、優勝を目指して大会当日に向け、日々訓練をしています。



ダニエル 震災などの大きな災害があった場合は、やはり消防団が必要ですよ。

日暮副団長 首都直下地震が危惧されていますからね。我々もそこまで大きな災害は経験がありません。経験していないというのは、やはり怖いものです。

ダニエル 松戸市でも住宅密集地はありますか。大規模災害時の延焼火災も怖いですよ。

大塚副団長 あります。そのときは常備消防の消防力だけでは足りないでしょうし、消防団の力が必要になると思います。

ダニエル 大地震などの大規模災害時は消防団で災害対応をするためにお勤め先から帰って来られるんですか。

成嶋副団長 大規模災害時は帰るのも大変でしょう。東京都では帰宅困難者条例がありますが、帰れないのは大変な問題です。

ダニエル 東日本大震災の際にも、帰宅難民になった人が多かったですね。

小嶋団長 松戸市は、帰宅困難者の受け入れ先になっていました。東京から出て、最初の市が松戸市なんです。

帰宅困難となった方の中には、お子様を迎えに来るのが3月12日の夕方になった方もいらっしゃって、子どもも教師も学校で待っていました。

志村副団長 震災だけでなく豪雨災害に対する対応も考えなくてはけません。昭和50年代

半ばに開発された地域では、海拔が低いところがあり、大雨でよく冠水しました。

今は治水整理が整ってそのようなことはなくなりましたが、国分川の水を江戸川へ流すためのトンネル工事の際に大雨が降って、工事に従事していた人が亡くなってしまったこともありました。

松戸市は区画整理事業として、調整池という施設を作っています。一気に増水した水を二～三日かけて河川に流します。これによりだいぶ被害は緩和されています。



ダニエル 私の住んでいる山形の最上川も大きいですが、江戸川というと随分大きい川ですよ。

小嶋団長 (治水工事が行われた) 徳川の時代に感謝しましょう(笑)

ダニエル 台風などの豪雨災害や地震災害のための訓練もなさっていますよね。

鈴木副団長 そうですね。方面隊訓練では、模型の倒壊建物から人を救助するというような実践的な訓練も始めました。かつては、火を消すことを中心に訓練していましたが、最近は災害に総合的に対応するような訓練も行っています。

日暮副団長 ちょうど明日も近くの中学校在防訓練があるのですが、救助・援助を含めて中学生の力を活用する訓練となっています。

ダニエル 中学生の力にも期待しますよね。

さらに、将来は消防団員になってもらえるといいですね。

松戸市消防団では、女性団員さんはどんな活動をされていますか。

小嶋団長 災害時の後方支援や学校などでの救命講習が主な活動ですが、中には女性消防操法大会に出場する団員もいます。18年前には全国大会で優良賞を獲得しました。女性分団として独立しているのですが、災害活動の際には、災害現場の近くにお住まいの方がその管轄分団と一緒に活動します。



取材の様子

消防基金の公務災害防止研修

ダニエル 松戸市消防団では、消防基金の研修(S-KYT等)を実施されていますが、実施してみてどうでしたか?

大塚副団長 大変勉強になりました。「勉強」以上でした。消防団活動に限らず、本業や日常生活においても基本となることだと思いました。

ダニエル そうですよ。皆さんそうおっしゃいます。

日暮副団長 機械類を長時間使っているとどうしても安易になってしまいます。人には「常に注意しろ」と言っている反面、自分ができていないこともありました。私は指差し呼称をやっていないときに怪我をしましたので、周り

の人からは、「お前がいつも言っているくせに自分できていないじゃないか」って。(苦笑)



ダニエル 研修を受けたあとは、他のみなさんが集まったときに教えたりされているのですか。

鈴木副団長 はい。各活動単位の訓練で研修に参加した団員が他の団員に教えています。

ダニエル 私も、何年前かにS-KYT研修に参加させていただきました。久しぶりにもう一回受けてみたいですね。どうしても時間が経つと忘れてしまいますからね。

日暮副団長 やはり、ときどきやらないとダメです。

松戸市消防団のPR

ダニエル 松戸市消防団のPRとしてはどんなことがありますか？

小嶋団長 松戸市の出初式は、コンパクトな時間で非常に精度の高い内容となっており、大変評判がいいです。

成嶋副団長 我々がやっている出初式の行進というのは、一種独特のものです。多くの団員が規律正しく行進します。会場には3,500人くらいの方が見に来られますし、大変壮大なものです。



日暮副団長 1年の始まりに、きちんとやることで、あらためて団結することができます。

ダニエル 一心同体になるということですね。

鈴木副団長 そういうことがバックボーンとなって、組織力に繋がります。また、そういう団結した姿が見ている人たちに喜ばれたり感動を与えたりできるのだと思います。



消防団としての悩み

小嶋団長 今、松戸市消防団では、30代を中心とした若い団員が大変意欲的で、操法で全国大会に行きたいという意気込みで練習している分団もあります。一方で、「(操法は)もういや」という分団もあります。

大塚副団長 皆さんの消防技術が向上するのが一番なのですが、積極的な分団とそうでない分団で二極化してしまっている部分があります。

鈴木副団長 分団によっての二極化、さらに

分団内での二極化があります。例えば、今は、団員不足ですが、入団資格だけみると、入れる方、入りたい方は多いと思います。本当は定年ギリギリの人でもその人ができる範囲でやってもらえればウェルカムだと思うのですが、そこに即戦力、特に「できるだけ若くて足の速い操法の選手を」という勧誘する段階での選別がどこの分団にもあるのかなという気はしています。

日暮副団長 50歳を過ぎて入団した人がいたのですが、どの番手でもいいから一度は選手をやってみてくださいとお願いして、親子ほどの年の差がある4人で選手をやっていたことがありました。

成嶋副団長 がんばって操法に取り組む団員の心意気は素晴らしいし、幹部としても応援したいのは山々なのですが、勝とうと思うのか、原点に返って、火を消すための器具の扱い、消防技術の向上ということを目的にするのかということが難しいバランスです。

小嶋団長 本当は、操法の経験がないことには消火活動はできるようにはならないのだけど、一方で、「大会で勝つチームを目標に」となってしまうと、せっかく「消防技術を身に付けたいけれど、大会で勝てるようになるほどの訓練回数は出られない、貢献できない」という人が、段々と暗黙の了解で外されていってしまう。こうなると全体のレベルアップにはつながりにくくなります。

ダニエル 土日の分団の訓練に予定が合う人ばかりが消防団に集まると、平日昼間の人員が不足することもありますか。

大塚副団長 昼間の要員は分団に何人かは必要なんです。みんなで行う訓練にはあまり出られない夜のお仕事をしている方で、昼間は大丈夫だという人もいますから、うまく分団を運営

できればちょうどいいんですが……。

鈴木副団長 職種は本当にバラバラですから、できないところは無理やり言うのではなくて、補い合いながら調整していかなければ、消防団に入ってもくれないし、入ってくれても段々遠ざかってしまうので、若い人たちにはうまくやるように言っているのですが……。

ダニエル 皆さんがどのようにしてお互いにそういった悩みとか問題を乗り越えるか。「参加したいのだけどその日はごめんね」が通じるか通じないかとか、そこが難しいですね。

日暮副団長 消防団の永遠の悩みですね。

ダニエル ひと昔前はこの辺もいい田舎でしたが、その分、文化的なものもあるかもしれませんが、またひと昔前の雰囲気と、今の雰囲気が変わりつつあるというのものもあるかもしれませんね。時間が合わないときには、バーチャル訓練とかができるといいかもしれませんね。

小嶋団長 そうですね。スマートフォンを見ながら勉強したりとか。でも、そうすると、皆バラバラになってしまうかもしれません。先ほど言った団結力ですが、一心同体という気持ちは集まって一緒に訓練しないとなかなか湧いてこない気持ちですよ。

成嶋副団長 団結する力というのは一番大事で、そういう指揮命令系統があるから怪我もしないわけです。

ダニエル これは消防団だけでなく、社会全体の組織にもいえることのひとつだと思います。

大塚副団長 万が一のときに、いかに同じ方向を向いて活動できるかということが一番大事なんです。それがだんだん難しくなっています。

団員確保について

ダニエル 全国的な傾向では団員さんの平均年齢が年々高くなっています。松戸市消防団ではどうですか？

小嶋団長 松戸市消防団でも同じ傾向です。

ダニエル 対策として何か取り組まれていますか。

小嶋団長 以前から広報を出してきましたが、それに加え、今後の取組として、少年消防クラブをバックアップすることにより、小学校や中学校の年代から消防団に親んでもらい、大人になったら、団員になってもらえるようにと考えています。

ダニエル 少年消防クラブから消防団へつながるといいですね。

日暮副団長 他には、新松戸に流通経済大学があって、そこに通っている学生さんが消防団に入ってくれています。

成嶋副団長 流通経済大学の中に防災サークルがあるんです。

ダニエル 若くてやる気のある大学生ともなると即戦力ですね。機械が好きな人だと、消防車やポンプの操作などに憧れたりするかもしれないですね。

小嶋団長 年齢が高くても経験のある団員と、これからいろんな経験を積んでいく若い団員が補い合っていければいいのですが、20代30代が少なくなってきた、段々とバランスが保てなくなっています。

非雇用者の割合が増えてきた

ダニエル 皆さんは、農業や植木などのお仕事をされているとのことですが、松戸市消防団全体の中で多い職業はやはりサラリーマンですか。

小嶋団長 サラリーマンです。

日暮副団長 東京に努めている者が多いです。彼らは、昼間は勤めに出てしまっていますから、平日昼間の消防力が足りないんです。

ダニエル 週末は足りているけど、平日は……。では、訓練の時間帯にも影響しませんか。

鈴木副団長 訓練は、どの分団も夜に仕事から帰ってきてからやっていることが多いです。

ダニエル 地方の消防団だと、お父さんが団員だったので自分も入るとい方が多いですが、こちらではどのようなきっかけでサラリーマンの方が消防団に入ってくれるのでしょうか。

志村副団長 盆踊りや町会の広報も新入団員勧誘の機会です。

大塚副団長 お祭りなどがありますと、消防団が警備したりしますよね。そのときに知り合いが来て「一緒にやろうや」と勧誘することがあります。

成嶋副団長 現役団員の友達を勧誘することが一番多いです。

ダニエル 友達からの紹介ですね。

日暮副団長 はい。「俺が入っているからお前も入れ」という感じで勧誘することが多いです。さらに、その後輩だとか何かの繋がり広がっていくことが多いです。

志村副団長 私も友達と一緒に入団しました。

ダニエル 入団したばかりの時期は、誰も知らない人の中では参加し辛いんですね。

小嶋団長 そうですね。誰も知らない人たちの中には入り難くても、友だちと一緒になら大丈夫だったりします。

ダニエル 消防団は幅広い年代の方がいますが、先輩後輩の関係など、若い人がそういうことに慣れていないということはありませんか。

鈴木副団長 それはあまりないですね。それよりやはり、元々知っている人がいるかどうかの方が重要なのではないのでしょうか。

日暮副団長 今日のメンバーは農家が多いですが、私たちが入団した時代は「農家の長男は順番で入りなさい」という文化がありました。

大塚副団長 それが、いつしか、だんだんと変わってきました。

小嶋団長 親御さんが元消防団員でもお子さんが入るとは限らないんです。新入団員の勧誘に伺っても、「うちはサラリーマンだから無理だよ」と一喝されることもあります。

成嶋副団長 状況が変わってきたので、団員確保も昔と同じ方法ではうまくいかないでしょう。

消防団の魅力

ダニエル 消防団は年齢の幅がすごく広くて職業もいろいろな方がいらっしゃいます。いろいろな方がいる組織の中で、みなさんはどのようにしてコミュニケーションを取られているのですか？

志村副団長 これは、消防団の魅力でもあります。いろいろな職業や年齢の人がいるので、それぞれの得意分野があり、分からないことがあれば、お互い教え合ったりできるんです。家庭菜園をやっているれば、農家の人に教えてもらったり。

日暮副団長 消防団も活動単位は分団に分かれています。つまり、「地域」なんですよ。消防団に入るまでは地域に住んでいても誰も知らなかったわけです。消防団に入れば同じ地域でいろいろな人と知り合えます。また、顔だけは知っているというような人とも訓練などで親しくなったり、部下団員の後輩が入ってくれば、

それをきっかけにもっと仲良くなったというのはよくあります。

ダニエル なるほど。「知り合い」だけではなく、「仲間」になるということですね。

大塚副団長 コミュニケーションです。

ダニエル 社会に出たての二十歳前後から消防団に入れば、そういった繋がりには本当に自分のためになりそうですね。



対談を終えて

松戸市には何百回と行ったことがあります。この数十年で大きく変化してきた都市圏の成長と変化の歴史、そこで活動されている団員さんの人間味など、魅力に満ちた地域だとあらためて気づかされました。

都市圏ならではの、全国的な傾向なのか、団員さんの職業と団活動の両立についても深いお話を伺うことができました。火災の時はもとより、大震災や風水害等の広域にわたる災害では、地域のつながりが強い消防団の役割は極めて大きく、そんなときには、何より地域の方たちの心の支えになるのだと感じました。消防団は地域になくはない存在ですね。これからも持前の消防団魂で現代の消防団が抱える課題を乗り越えてほしいですね。

松戸市消防団の皆さんのいっそうのご活躍をお祈りいたします。 (ダニエル・カール)